

牧之原市菊川市学校組合教育委員会臨時会 会議録

令和7年9月18日、牧之原市菊川市学校組合教育委員会臨時会が牧之原市役所相良庁舎に招集された。

この委員会に付議するため、委員長の告示した議案は次のとおりである。

付議議案

議案第3号 牧之原市菊川市学校組合 小中一貫教育推進計画の策定について

出席委員

1番 橋本 勝	事務局	教育文化部長	竹内英人
2番 近江賢市		学校教育課長	小倉圭司
3番 八木香代子		学校教育課教育コーディネーター	
4番 永田康彦			大石友巳
5番 山本和波		学校再編推進室長	小塚康道
		学校再編推進室主幹	石川奈美
		社会教育課長兼	
		大河ドラマ活用推進室長	本杉裕之
		スポーツ推進課長	佐々木悟
		教育総務課課長	永野智芳
		教育総務課主幹	飯田隆太

開会時刻 午後1時25分 牧之原市役所相良庁舎3階庁議室

教育長挨拶

9月5日に発生した竜巻は、細江地区を中心に建物や農業施設等に甚大な被害をもたらした。4年前の牧之原地区で発生した竜巻でも大きな被害があったが、今回はそれを上回る国内最上級の竜巻とのこと。市では連日対策会議を開催し、他市町からの応援職員やボランティアの力を借りて、被災者支援を行っている。一日も早い復興・復旧に向け、国や県、関係機関と協力し取り組んでいく。

本日の臨時会は、前回に引き続き、牧之原小中学校に係る「小中一貫教育推進計画案」について御審議いただく。

会議録署名人の決定（事務局より指名）

教育長と近江委員を指名

議案第3号 牧之原市菊川市学校組合 小中一貫教育推進計画について

（教育総務課長より説明）

質疑・応答の後、承認された。

教育総務課長 牧之原保育園、牧之原小学校及び中学校の保護者を対象に、アンケートを実施した。アンケート結果として、概ね反対は少なく、意見は多くいただいたものの、計画の内容を細かく変えなければならないような内容ではなかったため、今回配布の推進計画案については、前回いただいた意見についての修正のみとなっている。自由記載の欄には、質問など答えを求めているものもあったため、全 89 件の回答の中から教育委員会からの回答を示す必要があると判断されるものについては、回答の文言を検討して公表したいと考えている。事務局で内容を検討精査して、委員の皆様にご報告したいと考えている。

近江委員 全体的に何かご意見や確認事項があればお願いしたい。

教育総務課長 3 ページの関連する計画の関係図について、計画の記載順はどのような意図か。年度順ではないようだが。

教育長 教育をどう進めていくかという方針等の位置づけがあり、最上位に当たるものから順に降りてくる並びとなっている。

学校再編推進室主幹 大綱はそれより前からあり、計画書には現行の年限を記載している。そのため、ご指摘のとおり時系列では順番は逆だが、より上位のものが上にある形となっている。

近江委員 紛らわしいため年度を消す。

永田委員 年度の順番的にどうかと思ったが、意図があるものと承知した。

教育総務課長 以前の案から「など」が減って見やすくなった印象を受けた。計画書はカラー印刷で配布するのか。

近江委員 基本はホームページ上ヘデータで公表。印刷して配布することは考えていない。

永田委員 教育活動の状況について、牧之原小中学校は保育園と同一敷地内にあるということで、保育園との連携も意識的に行われてきたと思うが、そういうところは入れられないか。

学校再編推進室主幹 注釈の番号が見落としやすい。本文や下段にある数字が赤字等になっていると見やすいと思った。

永田委員 番号を赤字とする例はあまりない。注釈は読んでいる時に分からなかったら見ていただくというもので、注釈を先に見ることはないため、そのままとさせていただきます。

永田委員 承知した。

9 ページの方向性は、今回追記していただいて分かりやすくなった。自分は方向性が一番大事だと思ったが、文章だと流

れてしまうので、箇条書きなどで少し分けた形にした方が、より方向性を明確にできるのでは。

学校再編推進室主幹 計画書は文章で書くということが大前提となる。ただ分かりやすきの部分では、ご指摘のとおり箇条書きになっていたり枠で示されていた方が分かりやすいとすると、概要版など皆さんにお示しするときには、そのような形でお示しするのはいかがでしょうか。

教育長 概要版ではそのように反映させるということをお願いしたい。計画は最終段階にきていることから、これまでの議論やアンケートの結果も踏まえて、反映できるものは取り入れ、この中に十分謳われているものはそのままという状況。こうしたことを踏まえて、委員の皆様からご意見をお願いしたい。計画書そのものの文字の間違いや表現上の問題などもお願いしたい。また、アンケートについても、感想も含めご意見を。

近江委員 7ページの本文の「無理のない接続」は、「スムーズな接続」の方が分かりやすいのでは。

学校教育課長 そのような捉えでよい。直す方が適切かと思う。

近江委員 14ページの「牧之原市立の学校においても活動内容との時間数のバランスが課題となっています」が分かりにくい。

学校再編推進室主幹 「活動内容と時間数のバランス」に修正する。「おいても」については、牧之原小中学校だけでなく市立の学校でも課題となっているため、そのままとさせていただきたい。

近江委員 同ページで、会議体という言葉がある。慣れ親しんでいない、新しい言葉かと思うが、あえてこの会議体を使っているのか。いわゆる組織、目的を持った意図的な集団であるという意味合いかと思うが。会議体は広辞苑で引いても見つからず、インターネット調べたら出てきた。

学校再編推進室主幹 文科省が使っている言葉を取ってきているので、下手に変えたくない。組織でも伝わるとは思うが。イメージがつくようであれば会議体とさせていただければ。

教育文化部長 注釈の中でカッコ書きで説明するのはどうか。

学校再編推進室主幹 議論するための組織ということで会議体なので、会議体をまた説明する形になってしまう。学校運営協議会と地域学校協働本部はどちらも組織ではあるが、会議体と実行部隊の対比で置きたい。

教育総務課 そういった意味で、会議体という言葉を使いたいということが、意図的にある。

教育文化部長

全国的にコミュニティスクールの説明の時に、この言い方で出てくることなので、分かりにくさはあるつつも、このまま置かせてもらった方が問題はない。

近江委員

ここでの主張は、学校運営協議会と地域学校協働本部をしっかりと分けた方が良いということかと思うが、牧小中がどう動いているかあまりイメージができていない。CSDが全て動かしているわけではないと思うし、全てに関わっているとは思いますが、学校組織の中で、学校運営協議会との関わりでどういう組織ができていくかをまだよく知らないで、組織のことは勉強しないと分からないという印象を持った。例えば、どういう具体的なイメージをされているのか。地域学校協働本部と学校運営協議会が、どのようにつながって動いていくのかというイメージを知りたい。

学校再編推進室主幹

コミュニティスクールの話になるが、文科省では、学校運営協議会と地域学校協働本部を両輪でやっていきたいと思います。学校でPDCAを回していく時に、学校運営協議会が学校と一緒に教育方針を決めたり、どういうことを今年やっていくか、どういう子供を育てていこうかというものを考える。それを、こういうところに地域の人に関わってもらおうと良いとか、こういう人たちが良いという話が出た時に、地域学校協働本部の人たちがボランティアなどを集めてくれて、実際に一緒にやってくれる。そうした実行部隊が、この協働本部になる。先進地では、会議体は会議体であって、その会議体のところに協働本部の代表者が入っている。そこで決まったことを協働本部の方に下ろしている。協働本部の方には、例えば読み聞かせや事業支援、環境整備などをやる部会みたいなものがある。会議で決まったことがそこに下りて行って、部会の人たちがそれぞれ、どうやろうということを、下にいるボランティアの人たちと一緒にやっていくという形になっているのが、一番いい形。ただ、組織を作るのも労力があることなので、牧之原市としては、こういった形でコミュニティスクールをやっていくのが良いのか、議論を始めたところである。CSDや学校運営協議会の皆さんが言うのは、今は学校運営協議会が、地域学校協働本部がやるようなボランティアまで全部担っており、その人たちが話し合いもするしボランティアもするとなるとすごく大変ということ。ある程度機能を分けて、色々な人に関わってもらうことで、更に地

教育文化部長

域と学校が繋がっていくことができるのではという中で、どのような形が良いかというところを、牧之原小中学校で先駆けてやっていただけると良いなと思っている。

簡単に言うと、学校運営協議会は、学校と一緒に地域を巻き込んで、どういったものをしていくかを決めていく会議体で、そこで決めたことに対してそれなら自分がやるという地域の応援部隊、それが協働本部という形になるのが理想だが、CSDを中心に学校運営協議会が会議もするし、子どもたちの学習の支援も地域の一員としてやってくれているという状況が、牧之原小中学校に限らず市内どこでもなっている。もう少し役割を明確にした考え方、組織の作り方がないと。今やっている人が燃え尽きてしまうことがないように、会議体の方は会議体の方で入れ替わっていく、地域の方が引き継いで継続していくということが理想。今うまくいっているからそれでいいというわけではなく、より安定的、継続的にやっていくためには、こうした形を目指していくべきということで、それを牧之原小中学校で先駆けて、この仕組みを理解していただいたうえで進めていけば、他の学校の再編の中でも、更に運協も本部も再構築されていくことになる。そのモデルになっていくんだろうというイメージを持っている。

教育長

コミュニティスクールは既にあるが、小中一貫校としてそれを更に充実させていく必要がある。コミュニティスクールを市として目指す姿に近づけていきたいということ。

近江委員

CSDは学校運営協議会と地域学校協働の両方に関わっていくということか。

学校再編推進室主幹

そこもパターンがある。CSDは現在2つを兼ねているが、役割を分けることもできる。運営していくには分けた方が良いのか、兼ねた方が良いのか、両方兼ねた人が複数人いた方が良いのかなど、CSDの実情も考えながら、人数を決めていかないといけないと思っているが、そこはまだ分からない。

近江委員

イメージとして、牧之原小中学校で樹木の選定で募集がかかっていたが、そのように樹木選定や学校農園、花壇、読み聞かせなどの、具体的なイメージでの部会ができるという感じなのか。

学校再編推進室主幹

樹木の選定は環境美化として、学校としては皆さんに刈ってもらいたいというのがあるが、地域学校協働本部としては大人の学びということで、プロに教わりながらやれば家でも刈

れるようになるので、一石二鳥でやりたいということで始めているはず。地域学校協働本部でやれば、学校で子供に対してだけでなく、地域の人への学びにもつなげられる。今はその役割がぐちゃぐちゃしているので、そこがきれいになれば皆さんにも分かりやすくなる。

教育文化部長

草刈りや樹木の選定など、便利屋的に使われてしまう傾向がどうしてもあるが、それは本来の形ではなくて、どこかやらされ感もあるので、どう課題を置いて、それに対してどう取り組んでいくかというところをしっかりとやっていかないと。困っていることをとにかく本部に出せば何とかしてくれるということでは本来ないはずだが、そうなりがちの部分があり、そうしたところが課題になっている。

学校再編推進室主幹

一方で、職員の働き方改革ということで、先生でなくてもできる仕事は地域の人にしてもらうようにという考えもあり、一切合切協働本部というわけにはいかないで、どういったものがあるのかという精査もしていけないといけない。CSを良いものにしていきたいが、みんな頑張っていて、もう少しで息切れする寸前なので、ここをしっかりとやっていって、長く継続できるものにしていききたい。

山本委員

今年委員をやっているが、あまり大したことはやっていない。地域学校協働本部が地域主体なのか学年委員主体なのかは別にして、例えば学年で一人代表を出して、その人が常に出るでなくても、各学年のラインができてはいるはずなので、ボランティアを募るなどを、1～2年やってみたらいいと思う。強制的でもいいと思う。そういう機会がないと、保護者同士話す機会がすごく減っている。やってみて、仕事が来過ぎという話が出るようであれば、やれることやれないことをもう少し分けてもいいと思う。今のまま何もしないままで遅れると、学校運営協議会の人たちが大変になってしまう。

学校再編推進室主幹

杉並区などは、PTA 会長が終わった人をそのままメンバーにして、ボランティアは現役PTAを集めるということをしている。

山本委員

PTAもそれほど大したことはやっていない。今度からそこに入ってもらおうということも、一年くらいはやってもいいと思う。そうすれば、今度選定があるという時に誰か連れてくるとか、町内会で一人決めてもらって、体育委員など色々あつたりするので、その方を代表として連絡を取ってもらってボランティアで行くなどができる。やり方としては、強制

- 的にやってもいいんじゃないかと思っている。
- 教育長 どのように取り組んでいくかは、この計画を基に、今後、学校の方で具体的な策を考えて取り組んでいただくということで。この計画としては、今言ったような課題もあるので、より充実した形に向けて進めていただければと思う。
- 永田委員 10 ページの一覧で、教職員組織について、小中一貫校は従来の小学校中学校と同じ記載だが、職員室を一つにするという話をここに盛り込んだらどうか。アンケートを見ると、小中一貫校よりも義務教育学校にしてほしいという意見も見られ、小中一貫校だとあまり変わらないのではないかと思われてしまう。職員室なども一つにできるということを盛り込んだらどうかと思った。
- 学校再編推進室主幹 職員室が一つになっても、組織は別々である。また、ここは一般的なものを書いており、職員室が別々という学校もある。今回、牧小中は一歩進んで、組織は別だが同じ職員室にするということで、ここより少し進んだと思っていただければと思う。
- 山本委員 概要版に簡単に書いてあり、ほとんどの保護者はこちらを見ると思うので、こちらはこの表記でいいと思う。
- 学校再編推進室主幹 縦と斜めがこう変わる、それが子どもたちにどう影響するという、縦と斜めが変わることで横の関係にも影響があるということを具体的に書くことで、より効果が見えやすいということか。
- 教育長 ここはあくまでも一般的な資料として添付させていただいているということで、概要版等に対応させていただくことでよろしいか。
- (全委員意見なし)
- 八木委員 アンケートを読むと、小中でずっとつながるので、逃げ場がなくなるとつらいという意見がいくつかあって、そのことにどう対応していくかということを書くと、保護者も安心できると思った。
- 教育長 地域向けのアンケートではあまり回答がなかったが、保護者向に向けたアンケートでは色々な意見が出てきた。わからないという意見の中にも、小中一貫教育に対して明らかに反対という意見はほぼなかったので、教育委員会として推進してもいいと、事務局側では考えているところ。他に何かアンケートの意見について、この意見は大事にしないではいけない

- という話し合いになると思う。
- 教育長 中学生は髪を染めるのがだめで、小学校では髪の高い男の子や逆に刈り上げている子についても気にしない。中学校では、その先の高校入試や進路も考えると、それで大丈夫かという話が出てくる。
- 山本委員 保護者的には、今度榛原相良の義務教育学校もできるが、見た目に関しては、市内で統一した大まかなものがあるとありがたい。スポ少などでほかの地域に行くこともあるので、あっちの学校は良くてこっちはだめとなると保護的に辛い部分がある。
- 八木委員 高校は絶対染めてはだめ。パーマもだめ。男の子の髪形については、襟足が着いてはだめとか、ツーブロックもだめなど、結構厳しい。私立では自由を言っている学校もあるが、県立高校ではおそらくだめ。
- 教育長 新しい小中一貫校になれば、そこも大きな話題にはなる。先生方の中で、子どもたちの意見を取り入れながら作っていかなければならない。
- 山本委員 ここにこれだけ書いている人は、しっかり中身を読んでいると思うので、一個一個大切にしてほしい。件数としては約90件だが、兄弟で重複している人がかなりいると思う。中学校には関係ないと思っている保護者もいると思うので、それなりに返してくれたのではないかと思う。
- 近江委員 小中一貫校のイメージは、義務教育学校と比べると、小学校は小学校、中学校は中学校なので、そんなに変わらないという受け止めが多いという感じがした。本当はもっと変わるはずだが、そこまでは伝わらないか。
- 教育長 牧之原小中学校が目指す小中一貫校は、内容的には義務教育学校と変わらないが、榛原相良で作る義務教育学校より何か一段階下のようなイメージで受け止められ、最初から義務教育学校でやればよいじゃないかという意見になっているのだと思う。
- 学校再編推進室主幹 なぜ小中一貫校からなのかや、何が変わるのか、牧之原小中の小中一貫校が義務教育学校と何が違うのかなどのQ&Aが付いていれば分かりが良いと思うがどうか。
- 教育長 なぜ一気に義務教育学校にできないのかは、行政上の手続きなどが問題としてある。それを保護者や地域の人に返してもあまり説得力がない。教育内容としては遜色なく、新たにこ

んなこともできるとか、今よりこのように変わるということを訴えていかないと、その辺りの理解は得られないかもしれない。それは今回のアンケートでよく分かった。

学校再編推進室主幹
山本委員

榛原相良の義務教育学校との違いは施設だけかもしれない。その施設が結構大事だったりする。やはりあっちの学校に行かせたいという話は出てくる可能性はあると思う。

永田委員

榛原相良の義務教育学校については、牧之原市の教育委員も交えた話し合いはされているのか。もしあれば、問題点など情報共有できればと思った。

学校再編推進室主幹

報告はしているが、教育委員を交えて検討することはしていない。牧之原小中学校が先行している。

教育長

他はよろしいか。

(全委員意見なし)

教育長

大変短い期間で、委員の皆さんのご協力を得ながら進めてきたが、ようやくこういった形で計画までこぎつけた。それでは、委員の皆さんに採決をお願いしたい。

閉会（閉会時刻 午後2時35分）